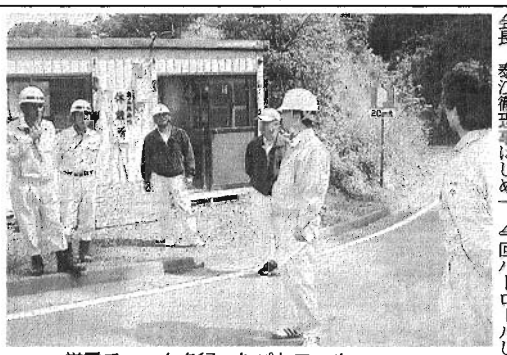
安全優先の取組み良好

瀬戸内建設業協会安全パト

瀬戸内建設業協会（伊東一宏会長）は23日、大島郡瀬戸内町の加計呂麻地区で年度末自主安全パトロールを実施、久原康裕理事を班長に昇直隆副会長、泰江徹理事はじめ会員12人、特別参加で大島支庁瀬戸内事務所の髙山祥治土木課長と町海洋開発課の重野辰則港湾係長も同行し現場を視察した。

今回パトロールしたのは、15年度加計呂麻港瀬相地区改修1工区（施工・㈱久原建設）、ふるさと林道緊急整備事業薩川実久線2工区（同・奄美興発㈱）の現場2カ所。概要の説明を受けた後、事務所内の書類等の点検や安全掲示板の確認を行ったほか、現場で作業状況を見て回った。

パトロール終了後、反省会を行い「両現場とも書類等がよく管理されている」とし、概ね良好の判断を示した。総評で髙山土木課長は「年度末の慌ただしい時期に安全優先の取り組みが感じられてよかった。また今回の安全パトには若い方も多く参加し今後の社会資本整備を担う力として期待している」と話した。



厳重チェックを行ったパトロール
＝瀬戸内町の現場で

鹿児島市都市計画審議会

12議案全てを承認

第18回鹿児島市都市計画審議会（別府三郎会長）は23日、鹿児島市のかごしま市民福祉プラザで会合を開き、鹿児島都市計画用途地域の変更や与次郎ケ浜地区、木材団地及び木材加工団地地区等の鹿児島都市計画地区計画の決定など12議案を審議した。

与次郎ケ浜地区は、当地区の特別用途地区（観光地区）の廃止に伴い、地区の特性に応じた適正な土地利用の誘導を行うため、地区計画の都市計画の決定を行うもの。位置は鹿児島市与次郎1丁目及び2丁目の各一部、面積は約77・4㌶。土地利用の方針として、交流・娯楽地区（48・1ha）と交流・業務地区（26・2ha）の二つに細区分し、土地利用の適正な誘導を行う。地区施設整備の方針は、整備されている道路及び公園緑地の機能が損なわれないよう、その維持・保全を図り、土地を有効利用するために必要のある場合は、適正に整備する。また、建築物等の整備は、「建築物の用途の制限」、「壁面の位置の制限」、「建築物の形態の制限」について地区整備計画を策定する。

また、鹿児島都市計画公園魚見第2公園の変更や用地地域の指定のない区域における建築形態規制に係る数値の指定など市決定9議案、鹿児島都市計画区域区分の変更など県決定3議案を審議し、全ての議案について特に問題なしとの判断がなされ、全会一致で承認された。今後、市決定については県知事の同意を得て、5月中の都市計画決定を目指したいとしている。

審議会＝鹿児島市のかごしま市民福祉プラザで

KGGF第1回セミナー

GISの最新動向詳説

かごしまGIS・GPS普及推進研究会（委員長・山崎利夫鹿屋体育大学スポーツスタイルマネジメント系助教授）は23日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで「KGGF第1回セミナー」を開き、会員ら約80人が出席しGISの最新動向などについて学んだ。

セミナーでは冒頭、2月に開かれた第1回委員会で年度内のセミナー開催を決定－などと開催の趣旨説明が行われた後、山崎委員長が「GIS（地理情報システム）の最新動向と利活用について」、吉松一成㈱萩原技研管理部係長が「地籍情報管理システムの研究」、平瑞樹鹿児島大学農学部生物環境学科助手が「GISを利用した地盤の液状化危険度予測に関する研究」でそれぞれ講演。また、ひろがるGISの世界（国土交通省国土計画局制作）のビデオも放映された。

この中で、山崎委員長がGISのカバーする領域や行政における利用状況、防災・防犯情報など地域情報提供について紹介したほか、「ソフトを使いこなす訓練や企画・分析能力など人材の育成が大切である」などの説明が行われた。

同研究会は、産官学で連携してGIS及びGPSに対する理解を深め、知識・技術の習得、研究ならびに普及推進を図ることを目的に設立されたもので、知識や情報を共有し、空間情報を活用した新たな事業づくりや教育・サービスの充実を実現することにより、高度情報化時代にふさわしい社会づくりを目指し活動していくとしている。

利用状況などが紹介されたセミナー
＝鹿児島市のかごしま県民交流センターで

環境対応商品説明会

健康増進住宅の解説も

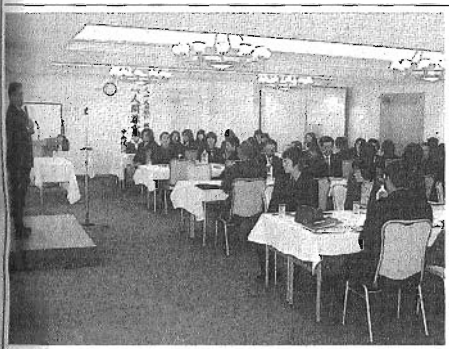
アーテック工房

高機能木炭液状塗料「ヘルスコート」開発製造元のアーテック工房㈱（吉松道晴社長、本社・横浜市）は23日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで商品説明会を開き、昨今の環境問題改善に伴った商品や健康増進住宅の在り方等について詳しく解説した。

会には、施工関係者ら約35人が参加。開催にあたって、南九州及び沖縄地区特約店の中村歳久㈱創造企画社長が「健康増進住宅が普及していく中で、施主のニーズに適した商品。利点や特性を深く理解していただき、今後現場でも広く活用していただきたい」と挨拶。

各種試験データを踏まえて行われた商品説明では、近年のシックハウス症候群などに見られる環境問題は、住環境に対する危険信号であり、空気質の改善は非常に重要な問題であると解説。その中で開発された「ヘルスコート」は、木炭が持つ調湿・防腐・消臭等の性能を最大限に発揮、プラスとマイナスのイオンバランスが調整された静電圧環境を作り出すことに成功した。特許取得商品として現在、一般住宅に限らず、教育施設や病院などでも広く使用されつつあるとした。

今後の健康住宅の在り方について、吉松社長は「最も安心できるはずの住宅でも、化学物質等による健康被害が絶えない今日。これからは空気も製造していかねばならない時代であると考えている。〝住みながら健康改善〟ができるナノテクノロジー住宅の普及を目指し、お客様のニーズに合った商品開発に全力を傾注していきたい」と語った。



全社員一丸となって業務に取り組むことを誓い合った社員総会＝入来町の入来城山ゴルフ倶楽部で

中央仮設グループ社員総会

顧客第一、高品質な製品を

中央仮設グループ（濱崎和久社長）はこのほど、薩摩郡入来町の入来城山ゴルフ倶楽部で社員ら65人が出席して社員総会を開き、顧客や地域にますます必要とされる企業となるよう、全社員一丸となってまい進することを誓い合った。

総会では、濱崎社長が「今年は巻き返しの年。一人ひとりが強い信念を持って業務を行うことが大事。顧客第一主義でユーザーに満足してもらえるよう、高品質な製品を提供していこう」と挨拶。

このあと、濱崎一朗会長が15年度決算見通し・16年度予算などを説明。この中で、濱崎会長は「地域密着型の業務を展開し、目標達成に向けて頑張っていこう」と呼び掛け、新年度に向けて全社員一丸となって業務に取り組むことを誓い合った。

なお同日は、今月末で退職する後藤五男運輸部長の還暦祝いが行われたほか、カルチャーコネクションのバーバラ植村氏を講師に迎え、「心から元気になろう」と題した自己啓発研修も行われた。

住宅環境改善について深く学んだ説明会
＝鹿児島市のかごしま県民交流センターで

錦江湾帆船フェスタ

来月30日から4日間

九州新幹線開業記念錦江湾帆船フェスタ実行委員会（錦江湾みらい総合戦略推進協議会、NPO法人ゆめみなと鹿児島等）は4月30日から5月3日の4日間、鹿児島市の鹿児島本港区で錦江湾帆船フェスタを開く。30日午前11時から歓迎セレモニーを行う。